

赤十字あやま

NO.
28

Okayama Chapter



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社と災害救護



Japanese Red Cross Society

「災害救護」日本赤十字社の挑戦と進化

日本赤十字社の救護活動は、多様化する災害に対応するため、進化を続けています。

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から30年を迎えました。この節目の年に、災害救護の歴史と進化を振り返ります。

明治時代から続く日本赤十字社の活動は、寄付やボランティア活動といった支援があってこそ可能でした。

阪神・淡路大震災においても迅速な救護活動を展開し、多くの命を支えることができました。

戦後初の大都市直下型地震災害の経験をもとに、

医療体制の強化やこころのケアの導入など、活動は大きく進化しました。

今後発生が予想される大規模災害に備え、

日本赤十字社は救護活動の体制強化に努めます。

災害

磐梯山噴火

救護員延べ15人を派遣し
105人を救護



※日本赤十字社として初の
災害救護活動を実施

関東大震災



1923

救急車の整備



1888



医療セットの全国統一化



無線(周波数) の増設



エアテントの整備

安眠セットの整備



dERU(国内型緊急 対応ユニット)の整備



緊急セットの整備



ラップポン (非常用トイレ) 整備



「いのちと健康を守る」救護活動のため、継続的に活動資金へのご協力をお願いします。

寄付の方法について
こちらから⇒



北海道胆振東部地震災害

平成30年7月豪雨

救護班64班を派遣し約3,200人を救護



令和6年能登半島地震

救護班290班を派遣



令和2年7月豪雨

令和元年台風19号

2020 2024

2019 2018

2016 2014
2008 2007
2004 2000
2007 2008
2011 2008
2014 2016
2016 2018
2018 2020



衛星電話の 整備



日赤の動き

令和7年度 岡山県支部では、次の活動に重点的に取り組みます。

■災害レジリエンスの強化



- 災害救護体制の整備・強化
- 災害時に活動するボランティアの育成
- 地域コミュニティ及び企業・団体等への「赤十字防災セミナー」の普及

■地域ニーズを踏まえた活動の推進



- モデル地区の選定による「地域づくり」の促進
- 赤十字施設・他団体との連携による「地域づくり」の展開

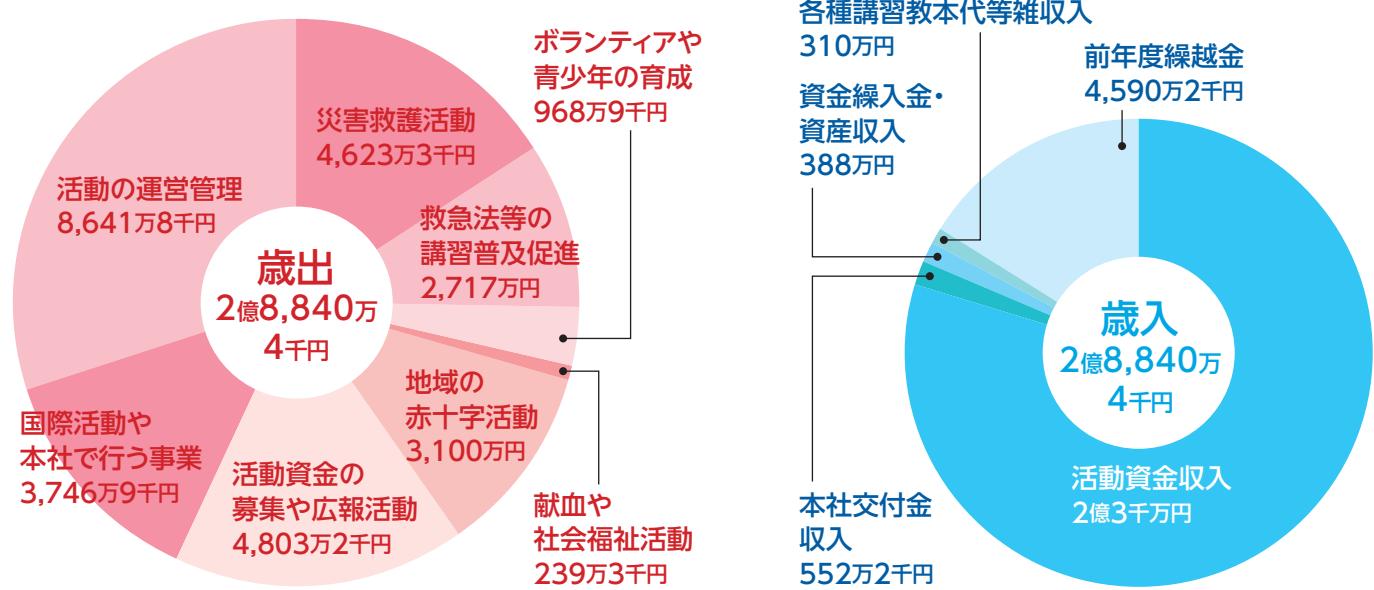
■持続的な活動のための経営基盤の安定化



- 戦略的なDMの送付や企業訪問等、収入増加に向けた各種施策の実施
- 支援者の拡大につながる赤十字活動の理解促進のための効果的な広報

令和7年度 一般会計歳入歳出予算概算書

岡山県支部の事業にかかる歳入歳出予算をまとめたものです。



大阪・関西万博 国際赤十字・赤新月運動館



2025年4月13日から10月13日の間に開催される大阪・関西万博において、赤十字は「国際赤十字・赤新月運動館」としてパビリオンを出展します。

ぜひ、会場にお越しいただき、赤十字の世界観を体感してください。

詳しくはこちらから→

